

大森地区優秀作文



可能性を広げるリング

大田区立大森第二中学校 三年 小方 圭翔

僕はバスケットボール部に所属しています。放課後の体育館では仲間と汗を流し、ドリブルやシュートの基礎を繰り返し練習しますが部活動で体育館が使える時間は限られています。もっと上達したいという思いが日に日に高まり、週末や祝日には自宅から自転車で十五分ほどの平和島公園のコートへ向かうことが僕の習慣になりました。風が通り抜ける広いコートは夕方になると太陽の光でリングが黄金色に輝きます。

公園のゴールの下には区内のさまざまな中学生や小学生、親子連れなど、色々な人が集まります。最初は「このゴールを使っても良いのだろうか。」と緊張しましたが、転がってきたボールを取る時「ありがとう。」「1対1しない。」と声を掛け合ううちに自然と仲良くなっていました。部活ではなかなかやる機会のないビハインドパスやステップバック、相手をだますノールックパス、それらを試せたおかげで、私は公式戦でピッチになった場面でも自信をもってプレーできるようになりました。

平和島公園のバスケットコートは大田区が整備し、定期的に床を補修したり、ゴールを点検したりしてくれています。その費用は、僕たちの家族や地域の大人たちが納めている税金によってまかなわれていると知

りました。コートの脇に掲示されているプレートには「この設備は、大田区によって管理されています」と書かれており、その文字を読むたびにリングだけでなく僕たちの夢や友情までも支えてくれる社会の存在を感じます。

公園での経験は、私の可能性を広げ、周りの人との団結力を高めてくれました。学校も歳も異なる仲間と一緒にプレーし、「また明日」と笑い合うとき、互いの違いは壁ではなく新しい技などを生み出すヒントになると気付きました。スポーツを通じた出会いは人間関係を豊かにし、困難を乗り越えるメンタルを育てます。そうした力が地域全体に広がれば大田区はもっと元気なチームになると僕は信じています。

税金は道路や橋といったインフラだけでなく、人の心をつなぎ、未来へのパスを出す役割も担っています。将来、僕が社会人になったときは、プレーヤーとしてだけでなく納税者としても次の世代のリングを支えたいと思います。税を通じて「頑張りたい」と願う誰かの背中を押せるなら、それはとても素晴らしいことです。

平和島公園の夕焼け空に向かって放ったボールがネットを揺らす瞬間、僕は税の大切さと、それを支えてくれているすべての方への感謝を胸に刻みます。私たち一人一人が未来へのパスを回し続ける限り、社会はきっとより良いチームになれる、僕はそう信じています。